



不妊治療最前線 ヒトゲノム解析から子宮内膜の研究が進む

ESHRE(ヨーロッパ生殖医学会)が2015年6月14～17日までリスボンで開催されました。近年の生殖医学会では、子宮内膜に関する研究報告が盛んに行われるようになりました。

体外受精による妊娠の成功率は、80%が胚(受精卵)、20%が子宮内膜の影響を受けます。そのため、数年前までは卵胞卵子や胚の研究が中心に行われていましたが、ヒトゲノム解析と遺伝子治療の台頭により、それらを利用した子宮内膜の研究が注目を集めています。

●不妊の原因に子宮内膜の問題は少ない

子宮内膜の研究が遅れていたもう一つの要因は、子宮内膜が不妊の原因となる率が低いことです。最も多い不妊の原因は、ブラジルを含めた第三世界では卵管炎、日本を含めた先進諸国では卵巣の問題(生活習慣によるストレス、ホルモンバランスなどに起因)です。

子宮内膜の問題による不妊の原因は、子宮内膜炎、細菌・ウイルス感染、血栓、免疫やホルモンの問題などが挙げられますが、原因不明で着床が妨げられるケースもあります。

●良好な子宮内膜で体外受精

子宮内膜の研究が進めば、さらに着床しやすい子宮内膜に調整できるようになります。

子宮内膜の状態が良ければ体外受精の成功率も上昇します。採卵直後の新鮮胚を移植するよりも、一旦胚を凍結させて子宮内膜の状態を良好にして、翌月に融解した胚を移植の方が成功率は10～20%上回ります(新鮮胚移植の成功率は35～40%)。新鮮胚移植と凍結胚移植を比較して、胎児の発育や出産のリスクなどに有意差はありません。

現在、凍結胚移植による体外受精は新鮮胚移植に比べて治療費が約20%高くなるという難点があります。しかし、凍結胚移植を実施する病院が世界的に増加しています。

*フェルチクリンの中野英二医師に解説していただきました。



《リスボンのESHRE
(ヨーロッパ生殖医学会)に
出席した中野医師》

フェルチクリン FERTICLIN

Av. Indianópolis, 1960 - Planalto Paulista- São Paulo - SP

Tel: (11) 5581-2045 / 5581-3566

www.ferticlin.com.br / ferticlin@ferticlin.com.br



不妊治療

体外受精 Fertilização In Vitro

卵子凍結保存 Congelamento de Óvulos

人工授精 Inseminação Artificial

精管切除後の治療 Vasectomizados



FERTICLIN
Clínica de Fertilidade

中野英二院長 不妊症専門医

DR RAUL NAKANO CRM 46.514
Especialista em Reprodução Humana

Av. Indianópolis, 1960 - São Paulo - SP

(11) **5581-2045** www.ferticlin.com.br